

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4392600013		
法人名	社会福祉法人 双友会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 つつじのさと		
所在地	熊本県菊池郡大津町大字大津字前田1187-1		
自己評価作成日	令和3年8月24日	評価結果市町村受理日	令和3年12月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和3年9月17日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

利用者の日常生活を送る中で、生活の支援における利用者が中心になるような支援を行っています。コロナ禍で外出や地域との関わりが少なくなりましたが、利用者、職員の安全面に配慮し毎日の感染予防、手洗い、マスクの着用、換気、消毒等を徹底するようにしています。ホームで過ごす時間が多くなってきた為、関わり寄り添い日々支援させていただいているところです。今年度は、担当職員からの声かけ等あり、グループホームつつじのさとで夏祭りを開催しました。手作りの紙で作った提灯をリビングに吊るし、金魚(おもちゃ)、スーパーボール救い、カラオケを楽しんでいただきました、駄菓子、かき氷も提供し祭りの雰囲気を感じていただけたのではないかと思います。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

ホームが県北の旧街道沿いに開設して10数年を迎えており、入居者が自然体で暮らすことや、地域との変わらぬつながりを主な理念として運営している。入居前から幾度も足を運んだであろう商店街や昔ながらの街並みが入居者の日々の生活を豊かにし、外出が制限された中でも状況を見計らい馴染みの商店などへ出かけ、籠りがちな生活に少しでも変化をつける努力をしている。開設時より変わらぬ手作り食への取組も入居者には嬉しい生活の一部であり家族からの感謝の言葉も寄せられている。現在、運営推進会議が書類審議にて関係者への資料配布となっているが、通常開催スタートの折には、是非とも小さなことでもホームの取組を今以上に発信していただき、更に地域から信頼されるホーム作りを期待したい。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭でゆっくりくつろげいでいただける様な支援を心がけています。日常生活の中で出来ないところ等をサポートしながら、理念の中にもある家族のような関わり、雰囲気大切にしています。	古くからの街並みや近所付き合いが残る商店街の一角に根を下ろし、地域とのかかわりや入居者が自然体で過ごせる運営を理念に謳っている。ミーティングや申し送りで普段の取り組みを通じて理念に立ち返っており、家庭的な雰囲気を大切にするホームでは、これまで通り手作り食へのこだわりや、母体との連携を継続しながらケアにあたっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月一回の地域清掃、毎朝の掃除等、地域の方との挨拶を行い、地域の中の事業所として関わりを持つようにしています。美容室(散髪)を利用しています。食事の食材においても近隣より調達しながら関係作りに努めています。	コロナ禍の中ではあったが、地域の活動には積極的にかかわり、前面道路の美化作業は毎朝の日課となっている。住民との立ち話や理髪店、商店の利用など地域貢献や活性化に助力しており、防災対策に関する地域会合への参加が実現している。	コロナ終息後には建物1階の地域交流スペース(よんなっせ)の再開や各地元行事への参加協力が期待され、入居者の地域交流の機会が待たれるところである。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍にて地域との関わりは少ないのが実情です。地域へ向けて、ホームでの高齢者の暮らし等を発信していく機会を持つて行こうと思っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍において、関わりを持つ機会が持てない状況があります。現在は、議事録等の提出、事故等の報告等を行っています。	本来行政担当者や地域代表者などが参加し、1階多機能事業所との合同会議を開催しているが、現在はホームの現状を含め、報告書として役場のみ提出し、書面審議の形をとっている。	今後、リモート会議の導入を検討しており、実現が待たれるところである。また、家族へも会議資料の送付と、通常開催の再開に向けて参加協力の呼びかけを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナウイルス感染症による連絡、連携、ワクチン接種、事前の説明会等の開催、調整。介護保険証等の申請等、事故の報告書の提出等、普段から関係を保つよう関わりが持つように努めています。	行政(町役場)はホームより徒歩圏内にあり、管理者は報告書の提出や役場主催の介護事業所情報交換会では、介護現場での状況や離職(事前アンケート提出)等、役場包括担当者等とともに意見交換、またシルバー人材等の今後について話し合われている。現在コロナ感染症により中止されている介護相談員の来訪も待たれるところである。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する意識を持つようにしています。夜間は防犯、安全への配慮他日中は自由に動ける環境に配慮しています。夜間の安全面でのセンサー使用にも共通認識のもとで支援するようにしています。	本年度は改まった研修は実施していないが、ミーティングの中で身体拘束について話し合う機会を持っている。入居者への寄り添いのケアが車いすからテーブル席やソファへの移乗により、外出が制限される中会話を通じてゆっくりかかわるように努めている。言葉使いについてはどうしても職員側の都合で言うてしまう場合や、語気への配慮が必要とのことであり、統一した対応が期待される。	今後は今のホームに必要な内容を検討し、議題を設定した研修会の実施及び記録が期待される。また、運営推進会議などで取り組み状況を報告することでホームの透明性が図られるものと思われる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	支援させて頂く立場で基本に立ち返り、利用者様の尊厳を守り安心して生活できるような環境等に配慮するようにしています。共通意識を持ち職場の風土を保つように心がけています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の中にも以前利用されていた方、現在も利用されている方も居られます。関係機関との連携及び連絡調整行い、権利を護り支援させて頂いています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、契約書及び重要事項の説明行い、事前に説明等を行っています。医療体制、料金的なところ、日中の活動、様子等様々ですが、できるだけ精神誠意お伝え、安心して利用して頂けるように心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望等があれば傾聴行い、状況に応じて対応するようにしています。コロナ禍で、利用者、家族また職員との関わりが難しくなっている中で、電話での対応を中心に玄関の窓越しでの面会等で関わりを持てるような環境に配慮しています。	コロナ禍の中家族の面会を窓越しに切り替え、入居者の表情を見てもらうように配慮している。緊急の連絡や入居者の様子は電話で伝え、同時に家族からの要望を聞き取り支援に反映するように努めている。新たな入居に際して入室が難しいことから居室内を写真に撮り、家族が物品配置の目安とするなど工夫している。	家族は入居者との窓越し面会や電話での状況報告により、入居者の現状を把握しているものの、できれば個別便りなども今後の検討事項と思われる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コロナ禍において、日々の業務等、状況に応じて感染対策に配慮しながらのミーティング等において話し合いを持つようにしています。その日の勤務、人員等、業務調整を行い、感染対策の徹底を行っており、随時調整配慮しているところです。	管理者は職員意見に耳を傾け、ミーティングで検討しながらケア向上に反映させている。また、個別の相談事や希望休に応じながら、年2回の面談の機会を設けており、業務改善や働きやすい職場環境を整えるべく努力している。介護職全体の流れとして定着率の少ない業界ではあるが、清潔感ある環境整備や、手作り食などに職員の努力が垣間見える。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	様々変化する状況の中で、皆勤賞等の表彰、思いやる気持を大切に職員への思いやりを大切に業務を実践しています。お互いが同じ意識を持つことが大変大切だと思っています。臨機応変な対応を心がけています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務の状況が変化する中で、職員が傍につきマンツーマンの状態で確認作業の把握できるように調整しています。業務に関して日々の報告、連絡等が大事な部分でもあり、職員間お互いの共通意識を持ち業務の実践を促しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前より、交流する機会も減っており、情報が少ないと感じることもありますが、状況に応じた他事業所との連絡は取りながら、ネットワークの関係性は保っています。電話やリモートを活用した研修が主になり、臨機応変に対応しています。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	顔を覚えて頂き、安心できるように笑顔で接しながら、本人の気持ち等に寄り添えるように関わりを大切にしています。馴染みの場所となるよう環境面等への配慮を大切にしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	普段から家族との関わりを保つように連絡事項や経過や状態等を伝えながら、信頼関係が築けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族より、情報交換等頂き相談しながら、情報を共有行い、状況によっては関係機関との連絡調整行って行きます。まずは必要な社会資源等の活用を行って行きます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族との関係性に配慮しながら、家族からの情報や要望を確認行い、馴染みの関係が築けるような支援を心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人との関係性を大切にして、家族からの要望等にもできるだけ応え、普段のホームでの生活等を知って頂くように努めているところです。いつでも連絡が取れて、状況が分かるようにサポートを行うようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人、知人等馴染みの方からの関係性が途絶えぬよう、できる範囲で協力を行い支援させて頂いています。コロナ禍で、感染対策に配慮した対応を行っています。	外出や外部との接触が難しかった中でも、時期や社会情勢を見ながら馴染みの理髪店を利用したり、季節の花見や母体までの外出などを通して、慣れ親しんだ人々との交わりや、風景を楽しむようにしている。階下にある多機能事業所との合同行事や何より家族との通常面会の目途が立つことを期待したい。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のトラブル等また入居間もない利用者等について、職員が間に入り、良好な関係性が保てるように支援を心がけるようにしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前と同様に利用者様、家族等の中で、相談等あれば支援させて頂いています。何かあれば出来る範囲で支援させて頂くようにしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思い等を把握しながら、家族との思いや意向に応えるように努めています。コロナ禍の中、大変難しい状況なってきているところです。	入居者自らが要望を出されることは少なく、職員は普段のかかわりから思いを引き出すようにしている。家族の要望がなかなか収集しづらい時ではあるが、電話でのやり取りなどから把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ホームで暮らす時間が多くなり、今までのようには出来ないところがありますが、家族、兄妹、知人等との関わりも状況に応じて支援させて頂いています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の各々の状況を観察しながら、その方の体調等に合わせ、部屋に休まれる時間を支援させて頂いたりしています。日常生活では筋力の維持等状態に応じて支援することを心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人等の状況を把握して上で、各々の課題に配慮しながら計画を作成するように心がけています。家族の思いや意向等も計画に反映できるように感じています。	ホームのケアの基本である家庭的な雰囲気や、入居者のできることを見守り、不足の部分を支えることが個別の介護プランに反映されている。認知症の進行による入居者の変化に寄り添うことや、臭気のない室内環境を整え、布パンツを併用した排泄支援に努力するなど個人の持つ力を引き出しながら立案している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の状態やバイタル等の状況を把握し状況を見守りを大切にする。普段の様子を踏まえ、必要な情報を伝達し、意識共有を行うように心がけています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族と連絡調整しながら、状況に応じて必要な買い物を行ったり、書類の事務手続き等の代行や連絡調整行ったりとニーズに応えられるようにしているところだ。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域の交流する機会減ってきたように感じますが、地域の社会資源の関わりを大切、つながりある生活を支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各々の状態等必要に応じて病院受診できるよう支援させて頂いています。本人からの意向や訴え等にも配慮行い利用者が安心して暮らせるように努めています。	本人・家族の希望に応じた医療機関を支援しており、協力医療機関や必要に応じた他科受診が行われている。職員は日々入居者の健康状態を共有し、コロナ感染症については、これまで以上に衛生対策を施しテーブルへのパーテーション設置などが行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関では、ホーム全般の状態を見て頂くこともあり連携を保っています、また併設事業所の看護師と情報伝達や連携を保ちながら状況によって支援するようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	様々な病状等によって、医療機関へ入院することもあります。利用者様の情報提供を行いながら治療を受けれるように配慮するように心がけています。入院後、病院、家族との連絡調整を行い方向性を見出せるように支援させていただいています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日々状態が変化する利用者様において、その方々の支援が困難になってきた場合また医療の必要性が必ず訪れます。本人や家族とのかかわり、できるだけ長く生活できる様支援を心がけ、状況みながら主治医、家族との話し合いを行い支援すること大切にしています。	入居者の状態に変化が生じた場合、主治医や家族との話し合いの機会が持たれている。現在は、長期入院や継続した医療支援が必要になった場合を退去基準としている。入院しても退院後ホームでの生活を望まれる場合があるが、現体制では受け入れが困難なこともあり、管理者はもどかしさも語っている。	コロナ禍の中家族と直接の面会もできない事から、入居者の心身の低下が見られるようである。今後も個々の現状を家族へ伝えながら、ホームに出来得るまでの支援に努めていかれる事を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日ごろ支援させて頂く中で、専門職として観察力を養い、利用者の状態に柔軟に対応できるようにしています。異変に気づき、早めの対応ができるようにマニュアルの見直しや普段からの情報提供を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難(消防)訓練を年2回行っています。火災がメインですが、最近の異常気象等での大雨、水害にも配慮が必要になってます。地域の方との関わりも重要です、協力できる関係性を強め意識共有しなければと感じています。	火災を中心にした避難訓練を年2回実施する他、昨今の自然災害のもたらす被害は想像を超えるものであり、予測や机上の訓練などの重要性を語っている。開設時より地域とは、協力体制の構築に努めており、商店街代表者とは良好な関係が継続されている。今後も地域とでき得る協力体制を強化していきたい意向である。	地域との協力体制がさらに深まっていくことに期待したい。また、2階ということで避難は困難な面が多いと想像され、火災については日ごろの安全チェックの継続に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様皆様へ、人生の先輩として尊厳を大切にしながら、関わりを持つようにしています。一人ひとりの利用者様の生活スタイルを把握しながら、プライバシーに配慮する意識を持ち接するように心がけています。	一人ひとりの過ごし方への要望などを把握し、プライバシーや尊厳に配慮した日常生活の支援に努めている。呼称は基本的に苗字としており、馴れ合いの呼び方にならないようにしている。身だしなみやおしゃれの一つとして、理髪も感染症対策を施し、必要に応じた支援を行っており、髪をとく事が習慣となっている方もおられるようである。	ふさわしくない呼称をはじめ、入居者への対応などについて、チェックシートを活用した振り返りの機会を持つ事も良いと思われる。取組に期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の生活の中で、各々利用者様の状態に応じサポートを行い、本人の意向等にもできるだけ関わりを持ちながら、家族、職員等皆で協力して支援するようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様を優先する一方で、食事、日々の活動等の関わり支援も必要なことから、調和を保つように心がけています。状態等に応じて自分らしく安心して生活して頂ける様にしているところです。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者のお洒落に対する気持ちは大切に頂きたいと思っています。生活の場であるホームで楽しみを持って本人の毎日の生活スタイルを大事にできるように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べること、食事は大変重要にしているところです。美味しく楽しい時間を共有して頂くことができるように心がけています。食後の食器等片付けはできる範囲でして頂く方も居ますが、現在は職員での支援が主になっています。	食事は入居者にとって楽しみの一つであることを十分認識し、開設時から献立、地元商店などを活用した食材調達、調理に取り組んでいる。入居者が食事に満足していることは家族も周知しており、感謝の声があがっている。これまでハンバーガーや牛丼などを持ち帰りで提供したこともあるが好評だったようである。現在、入居者が下ごしらえや調理に関わる機会は持たれていないが、食後に器を寄せたり、ランチョンマットの消毒など出来ることに取り組んでもらっている。	検食は管理者や他の職員も行っており、入居者の代弁者としてのコメントの記入に期待したい。敬老の日は祝いの饅頭やメニューが予定されている。今後も入居者にとって、栄養に加え楽しみとなる食事支援の継続が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は手作りで肉、魚、野菜等バランスよく摂取して頂き、美味しく食して頂くようにしています。毎日利用者各々一日の水分摂取量も把握するようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声かけを行い、各々部屋で口腔ケアを行っています。状態に応じた支援を行い、状況を見守りながら、出来ない所を支援するようにして、最終確認するようにしています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を把握、見守りしながら、状況に応じて支援しています。安易にレベルを落とさないよう尿意等を読み取り把握声かけを行い、気持ちよく過ごせる環境を心がけています。汚物の処理、におい等にも配慮行っています。	個々の尊厳やプライバシーに配慮した排泄支援に努めており、共有トイレやトイレが備わった居室もあり、誘導方法なども工夫している。また、汚物の処理も含め、トイレ掃除を徹底し、気持ちの良い排泄ができるようにしている。職員の気付きや連携によりリハビリパンツから尿取りの併用、布パンツに移行された例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、おやつ等、ヨーグルト、食物繊維等を摂って頂いています。他、便秘傾向の方においては、便秘薬の調整も行い便秘を予防し気持ちよく快便できるように取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	冬至のゆず湯等時期に応じて、お風呂を楽しんで頂くようにしています。今年の3月から7月頃にかけては、給湯機器の故障等で入浴が出来なくなり、デイサービスにて入浴支援させて頂きました。	浴室や脱衣所の整理、掃除を徹底し、気持ちよく入浴出来るよう継続して取り組んでいる。入居者の中には拒否をされる方もおられるが、職員は無理強いことなく清拭を取り入れながら清潔保持に努めている。今年の3月から5か月間ほど、給湯器の故障が発生したが、法人の機能を活かし、母体のデイサービス浴場が利用されている。車輛を使っでの移動であり、入居者の負担もあったが、発汗しやすい時期も皮膚疾患もなく過ごせたようである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様のこれまでの生活スタイルを大切にしながら、その方に応じて支援させて頂くようにしています。日中も昼寝等の習慣がある方や、状態等に応じて臨機応変に支援させて頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の管理においては、誤薬等事故が起きないように意識しています。状態等で内服薬の追加や変更がある場合等、随時及び週2回の定期薬処方時のセット、チェックする機会を強化し注意しながら支援させて頂いています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみは普段から手伝って頂いてます、職員の掃除をみかね、利用者様から手伝うとのお言葉を頂いたりすることもあります。本人が居て安心できるような環境、支援を心がけています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者、職員の安全を考慮し、外出支援は控えています。普段より感染予防対策を行いながら、病院受診、散髪等で必要な部分で支援しています。現在、コロナ禍で外出する機会も減ってきている状況です。	外出は控えている現状であるが、感染予防対策を施しながら必要な病院受診、散髪支援は継続して行われている。また、桜の花見や開通した阿蘇大橋へのドライブなどへも出かけている。今後は感染症への対応を継続しながら、車窓ドライブなどにも取り組んでいきたいとしている。	感染症への対応やホームは2階にあることから、戸外に出る事が難しくもあるが、状況を見ながら近隣を散歩する機会を模索していきたい。また、ミニ夏祭りは好評だったようで、今後も職員のアイデアや工夫により外出に代わるホーム内での楽しみを支援されることを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者のお金はホームで預かり管理しています。靴の購入でサイズ確認及び好きな靴を選んで買ったり、また他利用者様の中には好きなお菓子等を買ってきてほしいとの意向があれば、預かり金より買い物へ職員が出向きを支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話で話をして頂いたりすることもあります。利用者の中で携帯電話を所持している方は、家族と毎晩電話で一日の出来事を話されている方もいます。またその年の自分の写真を家族へ年賀状にして全利用者支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	現在はコロナ禍である為、感染予防対策をとりながら、マスク着用、手洗いの徹底を重んじているところです。馴染みの環境としての空間は、明るく、環境面に配慮しながら、利用者様が快適に過ごせるような支援が出来るようにしています。	2階にあるホームはリビングから地域の様子を眺める事が出来、物品の配置も安全面に配慮しながら圧迫感のない空間を作っている。壁面には継続して入居者の書の作品等を掲示しているが、家族をはじめ来訪者に目にしてもらえない事は残念である。歌や日時の紹介などは毎日の日課として取り組み、テレビ視聴も頼りすぎたりしていないかなど、検討をしながら使用している。	コロナ感染症の終息が見えぬ中、職員をはじめホーム内の環境の果たす役割は大きく、今後も家庭的な雰囲気大切に支援されることを期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の部屋もありつつ、リビングでは他者との関わりも持てる環境はメリハリができて刺激も持て良いと思います。他者との関わりまた一人の時間も大切にして頂き、各々が居心地よく過ごせるように配慮しているところです。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室で過ごす時間が長い方も居ますが、食事、レク等の活動等には参加されている時間もあり、臨機応変に支援しています。空調、部屋の快適性の中、様々なバランスを考慮し、快適な時間を過ごせるように支援しています。	居室への持ち込みや必要な物品については、入居時に管理者が説明を行い、換気や掃除、歩行状態に応じた居室内での見守りなど職員間で連携を図っている。コロナ感染症への対応から、現在は日中は特にプライバシーに配慮しながら、居室の扉を開放し換気を徹底している。共用空間を含め、ホーム内の臭気や行き届いた掃除など清潔に管理されていることは、家族の安心に繋がっている。	コロナの影響により以前のように家族による室内の確認ができないことは気になる点と思われる。今後も必要な品や、居室内の現状、職員の取組などを家族へ伝える事で更に安心に繋がると思われる。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	明るいリビングや馴染みの場となっている自室で本人のペースで安全に過ごせるよう各々利用者様の状況に応じて支援しています。馴染みの物や写真等を用いたりその方の居心地を考えながら、安全面に配慮し支援しています。		